

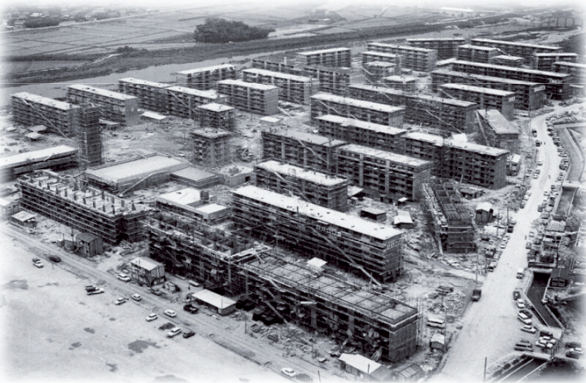
早良区内のUR住宅の今昔



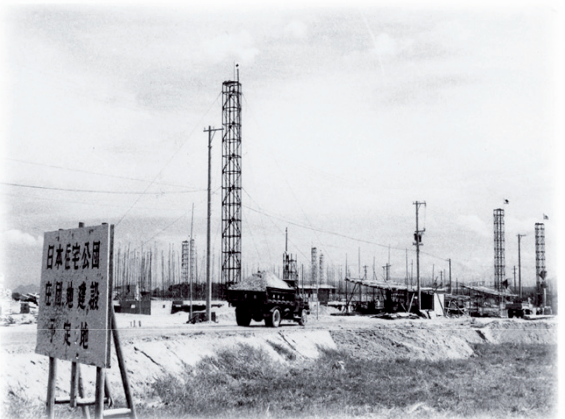
九州初の公団住宅・曙団地 昭和31年



曙団地 右端の道路は国道263号



建設中の室住団地 昭和45年



建設中の原団地

早良区内には、昭和30年代から昭和40年代にかけて建設されたUR(旧日本住宅公団)の大規模集合住宅があります。

九州で初めての公団住宅、曙団地(昭和31年)は、平成8年に現在の中高層住宅への建て替えが行われました。

昭和30年代の公団住宅は、住棟自体にある程度の個性を持たせることが可能でしたが、昭和40年代の建物は限られた予算の中で住宅を供給する必要があったため、規格化された住棟を建設しなくてはならず、建物よりも住棟配置に重点が置かれていました。

民間のマンションでは、建蔽率や容積率を使い切り、狭い土地に建物と駐車場が詰め込まれたものが多いのですが、旧公団が郊外に造成した団地の多くは、容積率・建蔽率が上限よりずっと低く抑えられ、各所に桜等の樹木が贅沢に配されています。



アーベインルネス曙



現在の室住団地



現在の原団地